

令和5年度優秀生産者表彰

令和5年度の優秀生産者には、サテライト型園芸メガ団地でネギと枝豆の安定生産を実現し、地域経済に貢献しながら出荷実績を伸ばしている農事組合法人アグリあいかわと、部会員の連携のもと産地維持に努め、今年度の計画を大きく上回る販売実績を上げた当JAメロン部会が選出されました。

優秀生産者表彰受賞者(敬称略)



農事組合法人アグリあいかわ (秋田市雄和)

部門 園芸(ネギ、枝豆)

伊藤 洋文 代表理事

「圃場の選択を間違わないように入念に作付け計画を立てて、排水対策を確実に行うように気を付けています。これからもJAの指導のもと、安定した収量や品質を確保できるしっかりとした生産体制を続けていきます」



JA秋田なまはげメロン部会 (男鹿市若美)

部門 園芸(メロン)

加藤 悟 副部会長

「品質や出荷量、販売額が計画を大きく上回ることができたのは、JAと部会員が一同になって取り組んだ結果です。今後も関係機関と連携しながら、品質の高いメロン栽培や産地維持に頑張っていきたいと思います」

令和5年度の農作物の生産販売状況について



水稻、大豆、ネギの営農担当職員が、令和5年産の品質検査結果や販売実績を報告。昨年度から取り組む「NAMAHAGE AGRI YELL PROJECT」の成果や、食品製造業者からの評価なども生産者に伝えました。

農政講演会

「どうする 高温に負けないコメづくり」



秋田県立大学の金田吉弘名誉教授を講師に迎え、令和5年産米の生育を振り返りながら、高温による米の品質低下を軽減する圃場や栽培管理、施肥などについてご講演いただきました。金田名誉教授は高温下での稲の習性やケイ酸質肥料の効果なども解説。「作物や土の状態、気象情報などから作物への影響を判断する“現場力”が大切。観察や記録をすること、互いに見合うことで“現場力”を高め、連携して異常高温を乗り越えよう」と呼び掛けました。

「セーフティネットへの加入について」

自然災害や農産物価格の下落など、農業経営への万が一の被害に備えるためのセーフティネットを、生産者らが学びました。農業共済や収入保険の補償の仕組みや、類似制度との違いなどを、秋田県農業共済組合が解説しました。



「水稻新品種【あきたこまちR】について」

令和7年から切り替わる「あきたこまちR」について、秋田地域振興局農業振興普及課が解説。県農業試験場の調査結果などを示しながら、導入の経緯や同品種がカドミウムを吸収しない仕組み、品質や食味が従来の「あきたこまち」と同等であることを説明しました。

